



校門のしいの木

校名から察する学校への思いや期待

学校への思いや期待

城山小学校の「城山」は、明治30年の郡制実施により、このあたり地域が城山村となった時に、初めて「城山村立城山尋常小学校」となり、校名に「城山」がつくようになりました。校舎は、明治32年4月に現在の駒野城址に建てられたようです。

さらに歴史をさかのぼり、ルーツを調べてみました。明治5年に学制が頒布され、それまでの私塾の学校から、公立の学校に変わってきました。そして、明治6年8月に、新しい制度での学校がスタートしました。当時、この地域には3つの学校がありました。

西駒野、羽根、馬沢、奥条、小坪新田、駒野新田の一部の子ども達が、南明寺の堂宇に通いました。この学校を鴻漸(こうぜん)南校と称しました。読み方の記録がないため、「なんこう」か「みなみこう」なのかは不明です。庭田、徳田、釜の段、駒野新田の一部の子ども達は徳田に建てられた校舎に通いました。この学校を鴻漸北校と称しました。「きたこう」か「ほっこう」なのかは同じく不明です。上野河戸、山崎、安江の子ども達は浄国寺の堂宇に通いました。この学校を敏行舎(びんこうしゃ)と称しました。注目したいのは、校名にある「鴻漸」と「敏行」です。

「鴻漸の翼」という言葉あります。「鴻漸の翼」は、ひとたび飛翔すれば千里をすすむといわれる鴻の翼のことです。その様子から「鴻漸」は、異例の出世をする優秀な人材、大きな事業が成功する人物を表します。また、「訥言敏行」という言葉があります。「訥言敏行」とは、優れた人格をもっている人は、口数は少なく、動きは正確で素早いということです。「敏行」は、その優れた人格や実行力のことを表します。つまり、150年前にこの地域の人々が子

城山小学校長 宇佐見嘉之
どもに望んだことは、「優秀な人材になってほしい」「優れた人格で、すぐに行動できる人になってほしい」ということだったと察します。「城山」も地名だけでなく、一国一城の主のように「立派になってほしい」との願いがあるように察します。保護者や地域の方が願う子どもの姿は昔も今も同じです。これからもその願いに応えられる学校運営に努めていきます。

150周年記念事業

令和5年に創立150周年を迎えます。その行事に関わる一つとして今年度は岐阜聖徳学園高校の和太鼓部を招き、公演会を行いました。当日は3部構成にし、密にならないようにして保護者の方にも参加していただきました。



(和太鼓部の演奏会)



(感謝のプレゼント)



(授業参観;6年総合)

「太鼓を敲く姿がとてまかつよかった。」「やってみたいなと思った」など、高校生の輝く姿にあこがれをもてた子どももいました。

また、この日、本校卒業生の榊原啓純様から寄贈していただいた「優勝旗」の贈呈式も行いました。榊原様は「しあわせを求めるなら、思いやりを学びなさい。思いやりの心があれば、いじめる、いじめられるもなくなる。」と話されました。運動会の優勝旗が深紅から濃紺になりましたが、子ども達の仲間と一緒に創り上げる思いは引き継がれていくと期待したいです。